

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしさ」輝く附属小

第18号 令和7年 9月12日(金) 校長 森内 秀学



附属らしい毎日



9月の風物詩である教育実習も、2週目に入りました。今週は、教育実習生の授業もたくさん行われていましたが、大学1年生の「参加観察実習」も、2日に分けて行われました。この日、各学級には8～10名の大学生がいたのですが、子どもたちはもう慣れたもの。むしろ、憧れの目で見つ

める大学1年生の前で授業を行う、先輩の教育実習生の方が、プレッシャーを感じていたことでしょう(上)。

たくさんの人と触れ合いながら、附属らしい毎日を過ごしている子どもたち。見守られている「安心感」と、見られることで高まる「張り切る気持ち」で、この9月、もう一回り成長しそうです。

たくましさは腕相撲で

9/9(火)の児童集会は、スマイルチーム活動の一つ「たくましさプロジェクト」の企画で、腕相撲大会が開催されました。オンラインでルールの説明を聞いたら、学級内で友達や実習生と対決(右)。大声援の中、大いに盛り上がりました。



ヤギさんのオスが仲間入り

「白丸」「紅白」というメスのヤギが2頭だった附属小に、オスのヤギが1頭仲間入りしました。夏季休業中に預け先の牧場で家族になったそうなので、一緒に連れてきました。乱暴者ではありませんが、とても元気で、餌もモリモリよく食べます。家族になったということは、ひょっとするかもしれませんね。